

ペアレント・キャンプの先生方、やっとこの日がやってまいりました。
これまで辛抱強く本人のみならず、私たち親を支えて
くださった先生方に、「もう大丈夫ですよ」と言っていたけど、
卒業の日を迎えることができるのは、どんなにうれしい
ことでしょうか？先生方に卒業の報告ができることが、
本当にうれしく、感謝の気持ちがいっぱいだよ。

思い起こせば、あれは1年生のGW直前でした。
登校のために玄関で靴を履く時に「もうつかれたよ〜」
と言って娘は泣き出し、重たくなってしまいました。それ以降、
歩いて12.3kmの道のりを2時間かけて登校する、教室
でも母親が付き添って授業を受け、保健室に
登校する、等やってまいりましたが、とうとう校舎には
全く入れなくなってしまいました。毎日家にソファに頭を突伏し、
毛布をかぶり、何の前触れもなくホロホロと涙を流す
6歳の娘を前にして、無力感に全身が震えていました。

「うちの子が学校に行けなくて...」と誰に相談しても、
「長い人生の中のたったの1年か2年だから焦って学校に
行かせなくて大丈夫だよ」と言われました。ところが、
彼女が夢に見ていた新しいランドセルを背負って
「ピッカピカの一年生」をたったの1ヶ月しか経験させて
あげられていたら、ということに焦る気持ちを抑えられ
ませんでした。

そんな時、水野先生の本『「3人でも立ち上がれ子ども
はあなたが育てる』と『無理に学校へ行かなくて
いい。は本当か』に出会いました。そして自分(母親)
なりに、これまで和みさんと彼女に失敗の経験
をさせてあげられなかったこと(過干渉)や支配が
強かったことが原因であると確信し、愕然としました。
そしてすぐに主人に相談し、セミナーに助けを求める
ことにしました。

母親である私の家庭教育をご担当くださった先生の
ご指導により、私が こともが忘れ物をしないうちに、
学校で困らないように、と 思い 先回りしてやっていた
こと、言っていたことのほぼ100%が、こと 物の成長を
阻害していたと分かりました。朝「もう起きてなさい!」
と 言っていていけないなんて、どうやって起こすんだろうと、
毎日が疑問だらけでした。ただただ言われるがままに
「とにかくやってみろ」毎日でした。今思えば、本人からすると、
母親が急に何も提案してくれない、指示してくれない
状態になり、自分に対して 興味を失ったと 思っていたのでは
ないでしょうか? 私に対しての当たりが強くなるたり、
スリスリと 2歳上の姉にぶつけることが多くなるたり、
本人が一番つらかったのは 確かだと 思います。が、
母親も、父親も、姉も 本当につらい時期でした。

その時期を乗り越え、先生方に復学に向けての
ご対応をいただき、学校に行けるようになってからは、
次第に娘にも学校の中にも、家の中にも自分の居場所
が見つかったようだ。友だちの話から、先生の楽しいエピソード、
嫌なことがあったという報告、これからみんなを出かけたい
気持ちはどを話してくれるようになりました。そして
急に母親の手を必要としなくなり、私も娘の手を
放すことが出来るようになりました。今は宿題を毎日
やっているかの確認はしていませんが、担任の先生に
聞いたところ、週2、3日はきちんとやってきているとの
ことだ。残り2、3日はやっていないということに
なりましたが、「それでもいいか」と思える親に
なれたことに、私の親としての成長を感じます。

子どもが復学し、私も仕事への復帰を遂げた
今ですが、今はコロナ禍で私もリモートワークをしております。

子どもたちに対して「行ってらっしゃい」「おかえり」が言える日々を送っております。娘の「行ってませーす!」という声も明るく大きな声になりました。通勤に急ぐ毎日では、ゆくりとこのやり取りをすることは、ごまなかったかもしれません。コロナに感謝はとてごまませんが、私も彼女もこの生活のリズムの変化で、進化が加速している気がしております。

あなたに毎日涙していたあの子ども、本日9歳の誕生日を迎えました。9歳の目標は「もうぶにゃぶにゃい」だそうです。「ぶにゃぶにゃ」というのは我が家では「ぐさる」として意味するのであが、本人もまだ「ぶにゃぶにゃ」しうたは自分を分かっているということであらう。まだまだお互いに進化の途中であが、私も子どもも適度な距離を保ちながら、親として子どもたちが、大海原にこそ出していく日を楽しみに待ちたいと思っております。

水野先生のご本との出会いに、とて時にほい履く、
時には厳しく親を指導してくださり、ことごと
寄り添ってくださった先生方との出会いに、心から
感謝しております。ありがとうございました。

これからも皆様が、多くのことごとたちと、心ゆく親を
守り続けられてくださることを願っております。

2020年10月